

「急性期医療」の拠点整備

首都圏を中心に病院や特別養護老人ホームなどを運営する戸田中央医科グループ（TMG、本部＝戸田市本町）は、朝霞台中央総合病院（朝霞市西弁財）を旧東洋大朝霞キャンパス総合体育館跡地（同市溝沼）に移転し、来年1月1日に新たに開業する。都内からのアクセスが良く人口流入が続く県内南西部で、病気の発症期から回復期に移行する間の「急性期医療」の拠点として位置づけるほか、災害医療の強化にもつなげる。

病院の新たな名称は「TMGあさか医療センター」。東武東

「あさか医療センター」来月開業



上線朝霞台駅から徒歩約8分、地上7階建てで、延べ床面積約2万5509平方メートル。病床は現

在より120増やし446床とした。1日当たりの外来患者数は1300人を見込み、常勤の医師は100人を確保。診療科は緩和ケア科や歯科口腔外科などが加わり、計26科体制となったほか、24時間管理が可能なモニターを備えたてんかんの専門治療も行う。

施設の充実に伴い、救急患者の受け入れも現在の年間約5千件から約7千件程度まで増やす。1、2階の外來診療室では、外來の混雑状況などによって診療科を柔軟に変更する「ユニバーサル仕様」を採用するな

来年1月1日に開業するTMGあさか医療センター
 朝霞市溝沼（大塚和範撮影）

ど、珍しい仕組みにも取り組む。

大規模地震に備え、建物の基礎部分には66基の免震装置を整備。災害が発生した際は、センターの前面に広がる駐車場が避難所となりトリアージも可能だ。廊下の壁には医療設備を納めているので、病床が不足しても廊下で治療できる。

同グループ本部事務部長兼朝霞台中央総合病院の小島重信事務長は「地域の安全、安心に貢献し、次世代のモデルになるような病院にしたい」と話す。現在稼働している朝霞台中央総合病院は1月から、「TMGサテライトクリニック朝霞台」に名称を変更し、人工透析や健康診断などの診療を続けるという。